

トビウオ通信 (H22 第 3 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 22 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 22 年 3 月に開催された東シナ海～日本海南西海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成 22 年度上半期（4～9 月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 22 年上半期(4～9 月)〕

マアジ:前年並み、平年を上回る マサバ:前年・平年並み

カタクチイワシ:前年・平年を下回る ウルメイワシ:前年・平年並み

マイワシ:前年並み、平年を上回る

※ 本文中で「上半期」は 4～9 月、「下半期」は 10～翌年 3 月、「平年」は過去 5 カ年（平成 17～21 年度上半期）の平均値、「前年」は平成 21 年度上半期をいいます。

マアジは前年並みで平年を上回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成 16 年以降減少傾向にあり、平成 21 年は前年並みの 2 万 9 千トンでした(図 1)。沖合域の今後の漁況は前年並みに推移すると予測されています。

一方、鹿児島県から山口県の沿岸域における平成 21 年 11 月～22 年 1 月の漁獲状況は前年並みで平年を下回りました。

今後は前年・平年並みに推移すると予測されています。

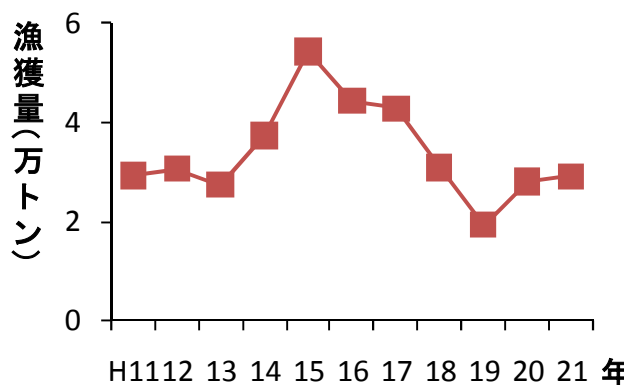


図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）によるマアジ漁獲量の推移

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は平成 11 年以降、2～3 万トンで横ばい傾向にあります。平成 21 年度下半期は 1 歳魚（H20 生まれ）を

主体に 7,922 トンの漁獲があり、前年同期(8,415 トン)の 9 割、平年同期(12,301 トン)の 6 割でした(図 2)。

今後の漁況は、漁獲の主体となる 0 歳～2 歳魚の山陰沖への来遊量によって決まります。1 歳魚と 2 歳魚の来遊量は、マアジ新規加入量調査から得られる加入量指数※(図 3)ならびに水温との間に相関関係が見られます。平成 22 年度第 1 回日本海海況予報(日本海区水産研究所、4/7 公表)で予測されているように日本海西部の対馬暖流の水温が平年並みで経過するとすれば、1 歳魚(大きさ 15～20 cm; H21 年生まれ)は前年並みで平年を上回り、2 歳魚(大きさ 20～25 cm; H20 年生まれ)は前年・平年を上回ると予測されます。これから山陰沖に加入してくる 0 歳魚(大きさ 5～15 cm; H22 年生まれ)の豊度は今後調査予定ですが平年並みと考え、1 歳魚が漁獲の大半を占めると考えると、全体の来遊量は前年並みで平年を上回ると考えられます。また、去年は単価の高い 2 歳魚はほとんど漁獲されませんでした。今年(2021 年)は加入量の多かった H20 年生まれが 2 歳魚となるため、2 歳魚が昨年より多く漁獲されることが期待されます。

※加入量指数が高いほど豊度が高いことを表します。詳しくはトビウオ通信 H21 年第 8 号をご覧ください。

マサバは前年・平年並み

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、近年上向きですが資源水準は依然として低い状態にあります(図 4)。平成 21 年の漁獲量は 6 万

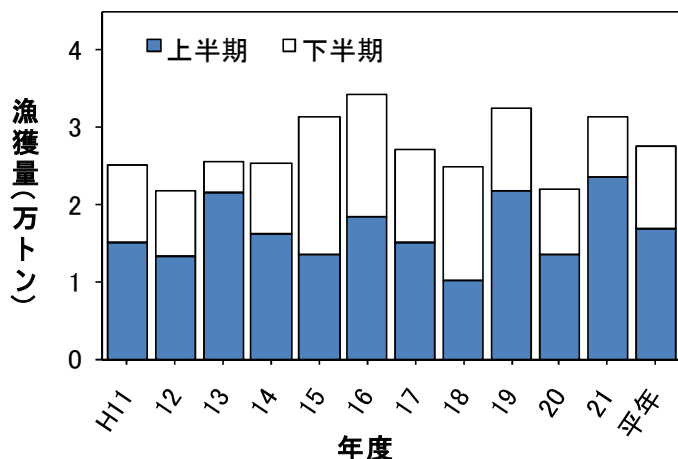


図 2. 島根県中型まき網によるマアジ漁獲量の推移 (年度別)

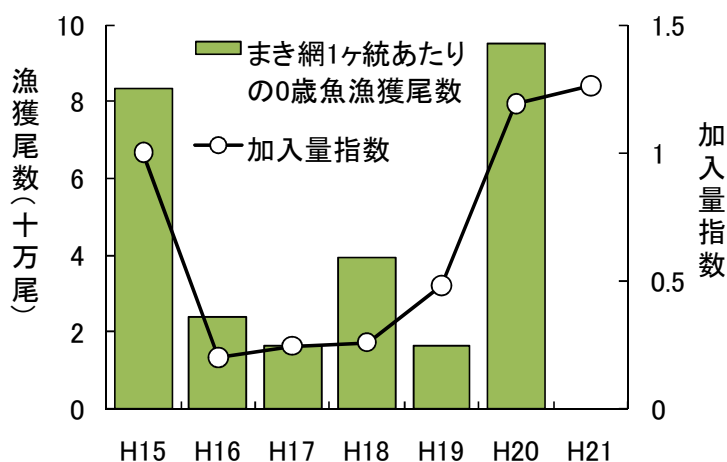


図 3. マアジ新規加入量調査による加入量指数と 6～12 月におけるまき網 (境港) 1 ヶ統あたりの 0 歳魚の漁獲尾数

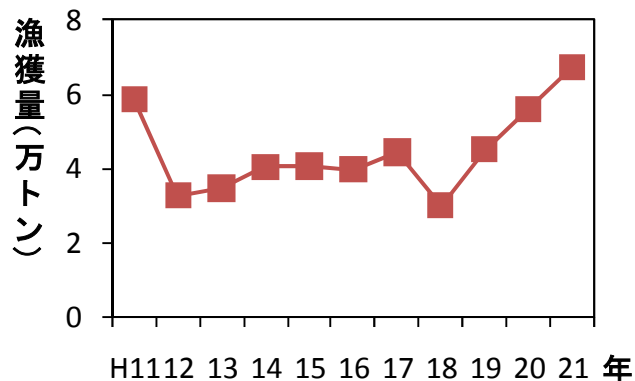


図 4. 東シナ海～日本海南西海域 (大中型まき網) によるマサバ漁獲量の推移

7千トンで前年の1.2倍でした。

島根県の中型まき網によるサバ類の漁獲量は、主漁期にあたる下半期の経年変化をみると、増減を繰り返して推移しています。平成21年度下半期の漁獲量は13,033トンで、前年同期(19,677トン)の7割、平年同期(11,203トン)の1.2倍となり、特に10月にマサバ0歳魚(平成21年生まれ)を主体に好調な漁獲が続きました(図5)。

今期は盛漁期にはあたらないため、今後漁獲は低調に推移しますが、1歳魚(25~30cm; H21年生まれ)が主体に漁獲され、夏以降は0歳魚(15~20cm; H22年生まれ)も漁獲されます。H21年生まれの資源水準は前年並みかやや下回るとされています。また、H22年生まれの資源水準は予測が困難ですが、親魚量の水準や初期生残に関わる環境要因からみると前年並みと予想されるため、全体の来遊量は前年・平年並みと考えられます。

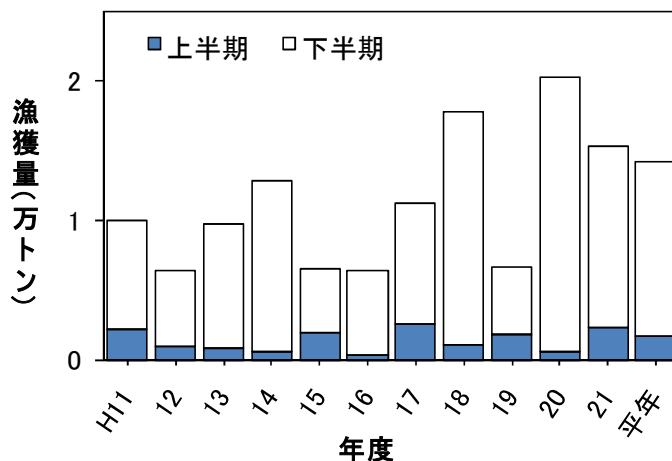


図5. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移 (年度別)

カタクチイワシは前年・平年を下回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成13年以降低調に推移しています。平成21年度下半期の漁獲量は3,092トンと、前年同期(5,597トン)の6割、平年同期(5,672トン)の6割でした(図6)。

今後の漁況は、漁獲の主体となる0歳魚(大きさ5~10cm; H22年生まれ)と1歳魚以上(大きさ12~14cm; H21年以前生まれ)の来遊量で決まります。H20年生まれ以降のカタクチイワシは前年を下回る傾向にあると推測されています。また、H22年生まれの加入量の予測は困難ですが、前年並みと考えると、今期の来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

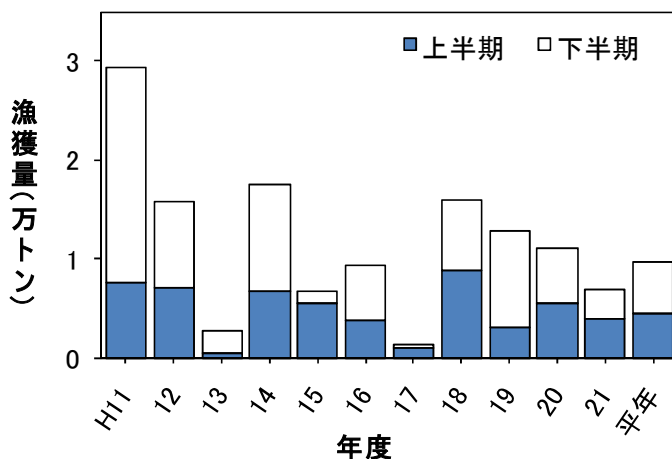


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移 (年度別)

ウルメイワシは前年・平年並み

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成14年以降はやや増加傾向にありますが、平成21年度下半期の漁獲量は1,857トンと前年同期（1,925トン）並み、平年同期（2,598トン）の7割でした（図7）。

今後の漁況は、漁獲の主体となる1・2歳魚（大きさ18cm以上；H21年・H20年生まれ）と夏以降の0歳魚（大きさ5～15cm；H22年生まれ）の来遊量で決まります。産卵親魚として来遊する1・2歳魚の資源量は前年並みの水準と考えられています。また、0歳魚は予測困難ですが、親魚量から考えると前年並みの水準が期待でき、全体の来遊量は前年・平年並みと考えられます。

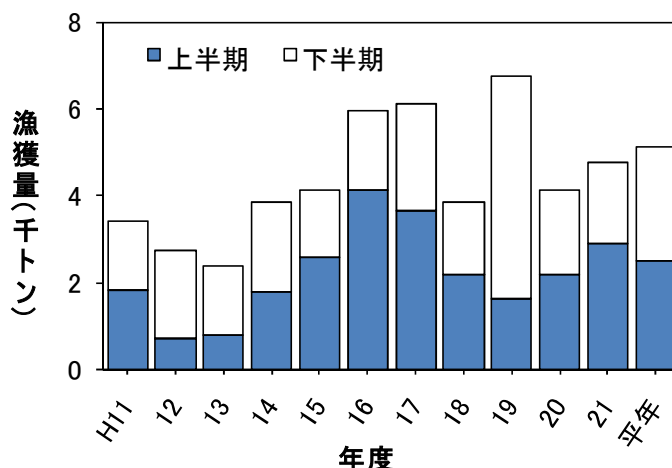


図7. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移 (年度別)

マイワシは前年並み、平年を上回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成15年以降やや回復傾向にあり、平成21年度下半期の漁獲量は1,404トンと前年同期（47トン）の30倍、平年同期（1,010トン）の1.4倍と好調でした（図8）。

今後の漁況は、漁獲の主体となる1～3歳魚（大きさ15～20cm；H21年～H19年生まれ）と夏以降の0歳魚（大きさ15cm以下；H22年生まれ）の来遊量で決まります。

近年、マイワシ全体の資源量はやや回復の兆しがみられるものの、その水準は依然として極めて低いため、散発的な漁況が続くに留まっています。今後も同様の傾向が続くと考えられ、全体の来遊量は前年並みで平年を上回ると考えられ、以前のような豊漁は当分望めないと思われま

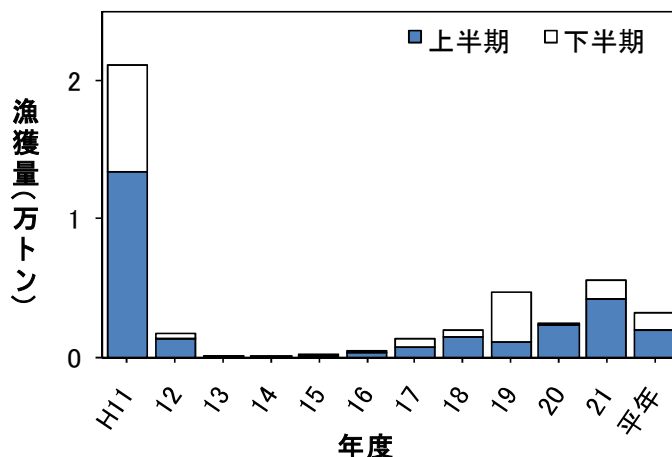


図8. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移 (年度別)